

歪正規ノイズに基づく Lasso 回帰

小山 和輝

総合研究大学院大学 統計科学専攻 博士課程(3年次編入学) 4年

1 研究の概要

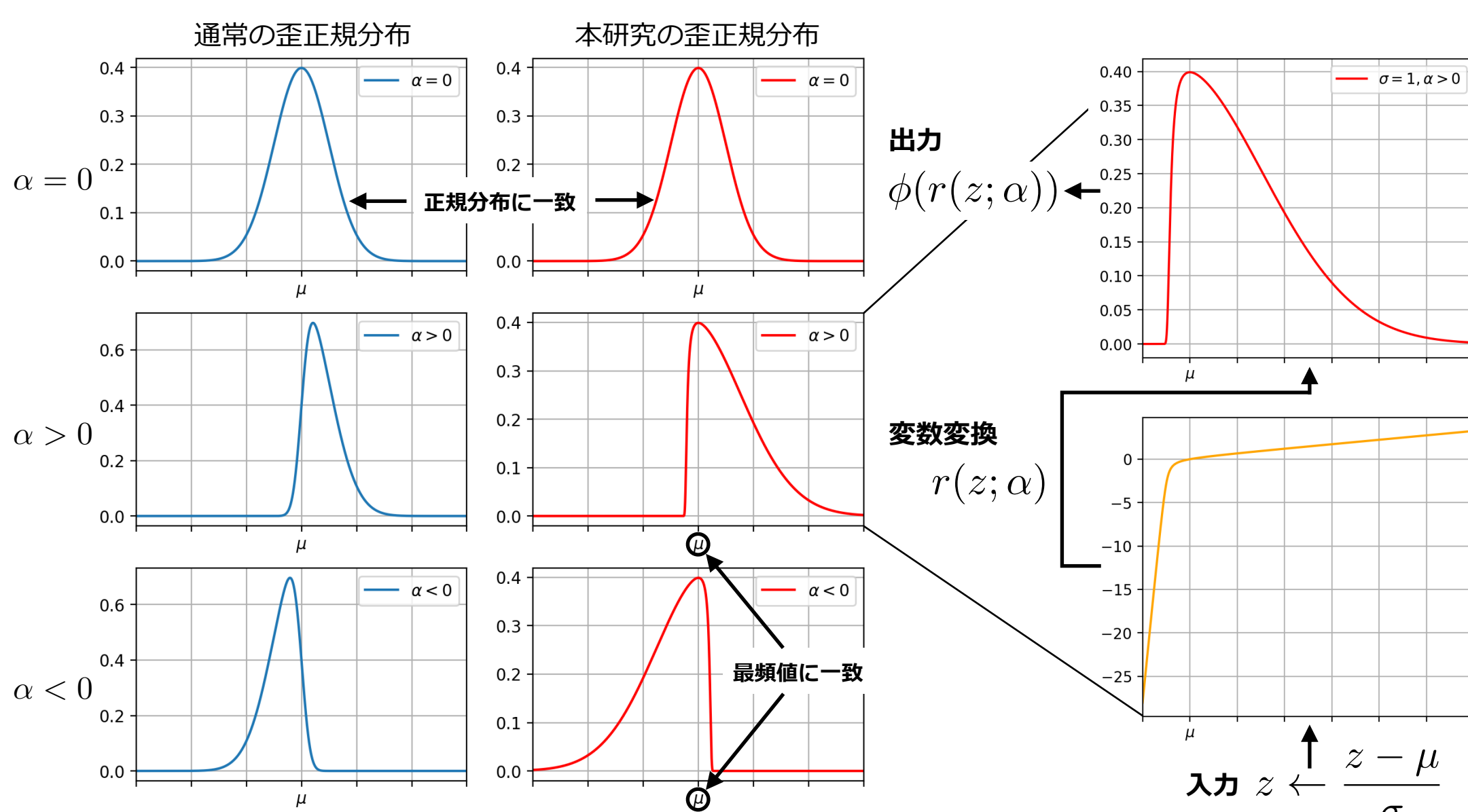
- ノイズが歪正規分布に従う線形回帰モデル $y = X\beta + \epsilon$ を扱う
 - $X\beta$ を分布の平均値や最頻値に回帰させたいが...
 - 一般的な歪正規分布では解析解が得られない [Azzalini, 2013]
- 本研究では性質の良い歪正規分布 [Fujisawa and Abe, 2015] を用いる
 - 位置パラメータ μ が常に最頻値に一致する分布
 - $X\beta \rightarrow \mu$ で最頻値への回帰が可能で回帰に違和感がない
- 今回は特にL1罰則をつけたLasso回帰について考察する
 - Excess Risk 及び パラメータの推定誤差に関する理論を構築
 - 数値実験では回帰スコア & 変数選択性能の両面で良好な結果

2 提案手法

- 本研究の歪正規分布 [Jones, 2014; Fujisawa and Abe, 2015]

$$f(z; \mu, \sigma, \alpha) := \frac{1}{\sigma} \phi \left(r \left(\frac{z - \mu}{\sigma}; \alpha \right) \right) \rightarrow \mu \text{ が最頻値に一致}$$

ここで, ϕ は標準正規分布の確率密度関数, α は歪度を調整するパラメータ
また, 変換 r は $s(w) := r^{-1}(w)$ として $s'(w) + s'(-w) = 2$, $r'(z) > 0$ を満たす



- 提案手法の定式化

$$\operatorname{argmin}_{\beta, \sigma, \alpha} \ell(\beta, \sigma, \alpha) + \lambda \|\beta\|_1$$

誤差項

$$\ell(\beta, \sigma, \alpha) := -\frac{1}{N} \log \prod_{n=1}^N f(y_n; X_n \beta, \sigma, \alpha)$$

$$f(y; X\beta, \sigma, \alpha) := \frac{1}{\sigma} \phi \left(r \left(\frac{y - X\beta}{\sigma}; \alpha \right) \right)$$

ここで, $\beta \in \mathbb{R}^P, \sigma \in \mathbb{R}, \alpha \in \mathbb{R}$ で
パラメータ空間と共変量は有界とする

- 提案手法の最適化 (非凸最適化問題)

- β に関する最適化 (σ, α 固定)

誤差項は β に対して性質の良い凸関数

$$0 \leq \nabla_{\beta}^2 \ell(\beta, \sigma, \alpha) \leq C_{\sigma, \alpha} \Sigma$$

→ 例えばMMアルゴリズムなどで効率的に最適化できる

- σ に関する最適化 (α, β 固定) と α に関する最適化 (β, σ 固定)

高々1変数の最適化なので種々のソルバーを利用可能

ここで,
 $\Sigma := \frac{1}{N} X^T X$ であり
 $C_{\sigma, \alpha}$ は σ と α に応じた定数

反復

3 推定誤差に関する理論

定理: 推定誤差理論 (提案手法の場合)

共変量 X_1, \dots, X_N を固定し, スパース推定の一般的な仮定をおく
最適化では, ある定数 T と λ_0 を用いて正則化係数を $\lambda \geq 2T\lambda_0$ で選ぶ

このとき, (十分大きな確率で) 以下の評価が成り立つ

$$\bar{\mathcal{E}}(\hat{f} | f^0) + 2(\lambda - T\lambda_0) \|\hat{\beta} - \beta^0\|_1 \leq O(\kappa^2 s_0 (\log(N))^4 \log(P \vee N)/N)$$

ここで, λ_0 のレートは $\lambda_0 \asymp (\log(N))^2 \sqrt{\frac{\log(P \vee N)}{N}}$ であり,

s_0 は真の非ゼロ係数の個数, κ は制限固有値条件に応じた定数である

$\bar{\mathcal{E}}$ は $f^0 := f(y; X^\top \beta^0, \sigma^0, \alpha^0)$ に対する $\hat{f} := f(y; X^\top \hat{\beta}, \hat{\sigma}, \hat{\alpha})$ の Average Excess Risk で

$$\bar{\mathcal{E}}(\hat{f} | f^0) := \frac{1}{N} \sum_{n=1}^N D_{\text{KL}}(f(y_n; X_n^\top \beta^0, \sigma^0, \alpha^0) \| f(y_n; X_n^\top \hat{\beta}, \hat{\sigma}, \hat{\alpha})) \quad (D_{\text{KL}} \text{ は KL 情報量})$$

4 数値実験

- データセット

- スパースなパラメータを持つ線形回帰を考える

説明変数: $X \in \mathbb{R}^{500 \times 100}$, $x_{np} \sim U(-1, 1)$ (U : 一様分布)

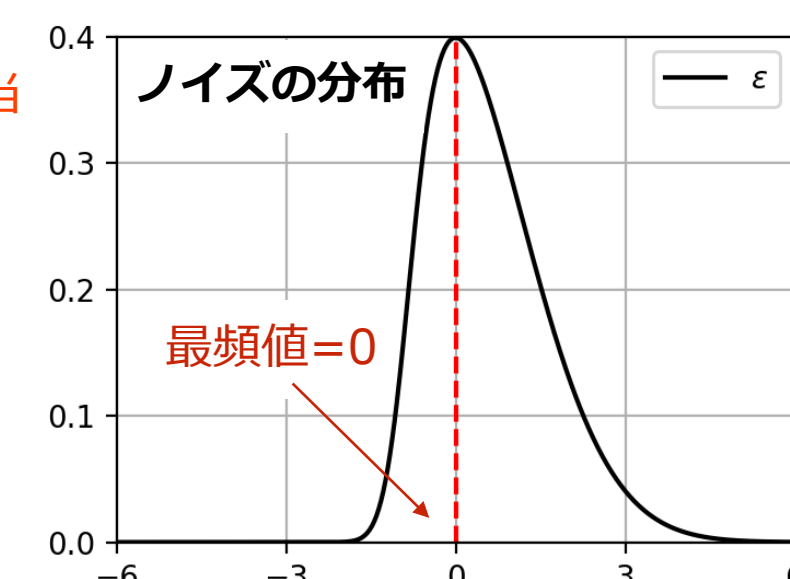
目的変数: $y \in \mathbb{R}^{500}$, $y_n = X_n \beta^0 + \epsilon_n$

パラメータ: $\beta^0 = [1.0, -0.9, 0.8, \dots, -0.1, 0.0, \dots, 0.0]^\top \in \mathbb{R}^{100}$
 $\beta_p \neq 0$: 10個 $\beta_p = 0$: 90個

ノイズ: $\epsilon_n \sim \phi(r(z; 1))$ $\sigma = 1, \alpha = 1$,
本研究の歪正規分布 ($\mu = 0$) に相当

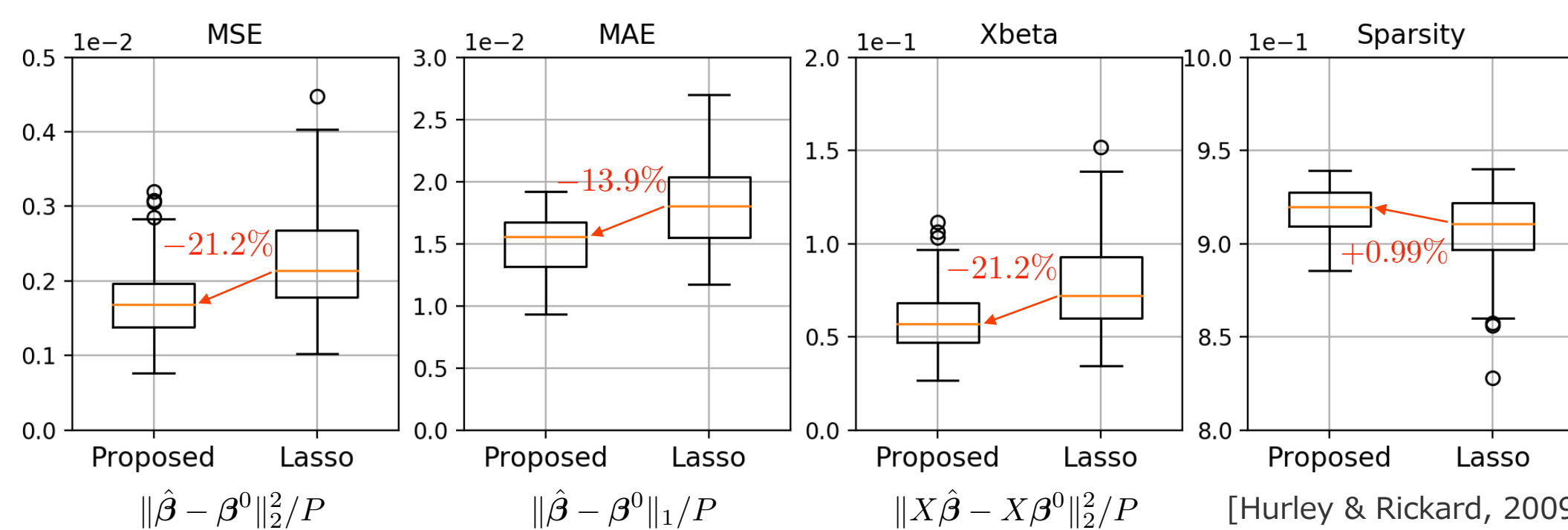
- 実験条件

- 訓練データ (100セット) + テストデータ
- 比較手法は通常のLassoモデル
- 正則化係数は5-分割交差検証で調整
(CVの評価指標は尤度の最大化に基づく)



- 実験結果①: パラメータ β の推定精度

- テストデータに対する評価 (各100個) をボックスプロット

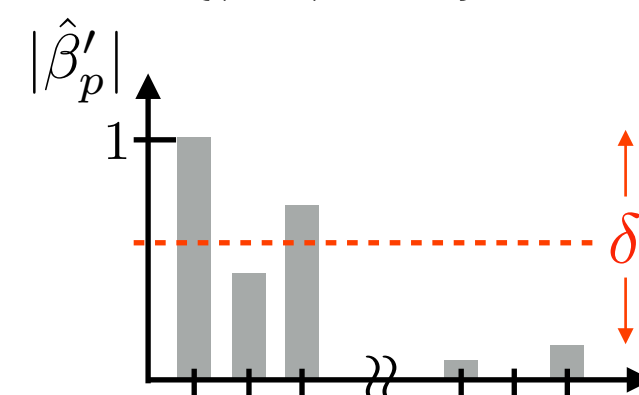


- 実験結果②: パラメータ β の変数選択性能

- 事前に正規化 $\hat{\beta}' := \hat{\beta} / \|\hat{\beta}\|_\infty$

- 閾値 δ を基準に変数選択を行う

$\mathbb{1}\{|\hat{\beta}'| > \delta\}$ と $\mathbb{1}\{\beta^0 \neq 0\}$ の比較



バイナリ化
→ $[1, 0, 1, \dots, 0, 0, 0]^\top$
 $= \mathbb{1}\{|\hat{\beta}'| > \delta\}$

